

2017-2019 セブン銀行 中期経営計画

2017年度は、セブン-イレブン店舗の新規出店およびグループ外への展開がさらに進むことからATM設置台数が着実に増加し、引き続き底堅い収益環境を見込んでいます。一方で、内外マクロ経済の変化や、技術の進化による決済手段の多様化等の影響を受ける可能性があります。

このような状況のなか、当社が持続的に成長するためには収益構造に厚みをもたせることが重要な課題であると認識しており、その解決に向け2019年度を最終年度とする中期経営計画を策定いたしました。

中期経営計画の概要

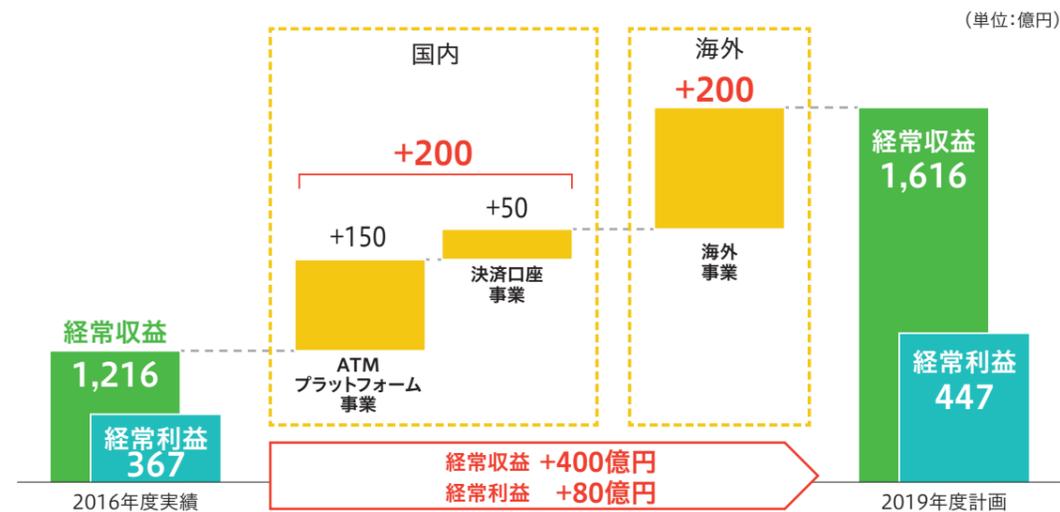
● 基本方針 **本業を伸ばしつつ事業の多角化を実現**

● 強化を図る事業

- 1 ATMプラットフォーム事業** **2 決済口座事業** **3 海外事業**

● 3カ年計画の目標値(連結)

経常収益 **1,616億円** 経常利益 **447億円** ROE **13%以上**



具体的な取り組み

1 ATMプラットフォーム事業

全国23,000台を超えるATMネットワークをプラットフォームと位置づけ、提携先事業会社とご利用いただくお客さまを増やすための施策を展開していきます。

- 既存提携先や決済分野への新規参入事業会社に向けた新しいサービスの提供などにより、従来の概念にとらわれない新たなATM利用スタイルを創造
- グループ内およびグループ外への設置を推進し、3年間で純増3,000台
- 設置環境の見直しなどによる稼働率の向上

2 決済口座事業

個人向けローンや海外送金などの既存サービスの利便性向上・収益力強化に加え、新技術を活用した独自の新しいサービスの開発により、さらなる収益の拡大に努めます。また、セブン&アイグループの金融各社とともに、決済などの新しい金融サービスを提供するための取り組みを進めます。

- グループ金融戦略：
 - ・ グループ各店舗に日々来店の2,200万人のお客さまに新しい決済サービスを提供
 - ・ セブン&アイグループらしい金融サービスを提供

3 海外事業

米国セブン-イレブン店舗内への着実なATM設置と安定稼働に努めるとともに、米国セブン-イレブンとのシナジー効果を追求し、新しいサービスの提供を目指します。日本での経験を活かした海外ビジネスの開拓にも取り組みます。

- 米国セブン-イレブン店舗への設置により、ATMを14,000台規模に
- 当社が有するノウハウ・インフラを最大限活用し、インドネシアをはじめその他の地域での海外ビジネスを展開

資本政策

3年間に創出する利益を、成長投資と株主還元強化を軸に配分します。

- **成長投資**
ATMの基盤整備などに積極投資
- **経営基盤のさらなる強化**
グループ金融戦略への取り組み、新たな投資機会への準備、BCP(業務継続計画)への対応
- **株主還元**
収益伸長の結果を還元強化、配当性向を最低40%に